

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>施設理念は独自で家族的、又笑いのある施設作りのできる目標にしている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝の申し送りで出勤職員全員で声を出し理念を読み上げ一日のスタートにしている。又、職員全員に理念を印刷した物を配布している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>利用者家族他への郵便物への理念の印刷、施設内にも簡略化した理念を誰でも見える大きさの物を掲示している。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>施設畑の手伝いに近所の方がみえたり、近所の方が作った野菜などを持って来てくれた時は、施設内に入り、入居者とお喋りを楽しむ事もある。又近所の子供たちも学校帰りや休みに来て遊んでいく事もある。町内の婦人部、他のボランティア(歌、踊り)なども時々訪れる。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々の申し送り、月一回の職員会議にて改善に取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度だが会議以外でも社協、役場、福祉課へ行き、意見を得て、入居者のサービス向上に努めている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	↓ 又、職員会議で推進会議の内容を活かす。又、職員他が目を通せるように議事録を置いている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は二名の権利擁護を利用している為、社協他との連携に務め、支援に努めている。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議等での話し合いは行っているが、マニュアルは無い。現在虐待等は発見することも無い。	○ 今後、マニュアル作成、全職員への周知徹底をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にも家族との面接、入居時にも契約書、重要事項説明書にて説明理解を得て、家族との信頼関係が保てるようにしている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置(現在利用はまだない)、又毎月の入居者の状態の報告を行う。面会時に状態を報告、家族からの意見の聞き取りを行っている。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月一度手書きでの近況報告、又、何らかの変化時は主任、管理者からTELでの報告、助言を求めている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置。上部(12)の内容での対応、また職員間での話し合いは行っている。一部外部の方(推進会議参加者)へは報告、助言を求めている。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一ヶ月に一度の職員会議にて意見や提案を出している。又、それ以外でも常に話し合える場面を作り、連絡帳等で全職員への周知徹底に努めている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況に応じて対応できるように勤務表の作成、又、職員一名(取締役)の出勤での調整を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットは二つだが、同施設内での移動でなるべく変化のない方のみの担当変更、引継ぎも行っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の時間を使用、ビデオ資料にて研修、新人職員に対しては管理者、主任でのマンツーマンでの介護技術の向上に努めている。	○	外部研修への参加はまだ少ない様であるため、今後増やして生きたい。
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設へのTEL等などでの意見交換を持っているが勉強会などはまだ難しいように思われる。	○	他施設との交流の中で、勉強会の話しは出るが、現在まだ実現していない。今後行っていきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の変化を見ながら、個別での話し合いやコミュニケーション作りに努めている。休憩時間は確保できている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則(パート、正職用)作成、年に二度健康診断の実施。産休、育児休暇の利用は現在もある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の聞き取り、また入居時での面接、又入居後に面会に来られる友人、知人など家族以外からの聞き取りにて対応(生活歴、環境)。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望時、家族からの聞き取りと担当ケアマネからの聞き取りにて個人の入居者にとって、もっとも良い支援を受けて頂けるよう努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他人同士ではあるが、同じ屋根の下で暮らす仲間として又、家族として笑い声の絶えない、そんな雰囲気の中で生活を送れるように心掛けている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	私たちは介護員である前に人間として、また家族として毎日生活を共にしています。喜怒哀楽を日々感じながら、共に支え合いながら暮らしていることを願っています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者には、いつまでも元気で暮らして頂く為に、自分で出来る事(残存機能保持)は行ってもらい、出来ない事は支援介助で行っている。家族の方にも理解して頂いている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人希望時は、施設から電話をし家族と会話を持っている。又、月一度職員から手紙での状況報告を行っている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中から、昔懐かしい馴染みの場所や人物を探して面会へ訪れる事もある。又入居者が大切にしている物を職員も一緒に大切に出来る様になっている。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が出来る事でもまずは入居者への協力を求め、入居者同士助け合いながら生活出来るよう互助の関係を大切にしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	体調の悪化にて入院した場合でも、仲の良かった入居者と職員とお見舞いに行き、やむをえず退居した入居者にも時々電話や手紙などを出している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族、入居者の望む生活が出来るだけ叶えられる様、個々の性格を把握し、心地よい生活空間を提供できる様に努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居、入居後も引き続き家族から情報収集をし、個々の入居者が大切にしてきた人生を守り続ける事が出来るように心掛けている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	共同生活であるため入居者個々の生活リズムが違う中ストレスを与えない様、又、他入居者の生活リズムにも少しずつ馴染んで頂ける様に努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議の中で各入居者の問題行動に対しての意見、又、随時問題行動に対して話し合いを行っている。家族には月一回、手紙での報告、特変時には電話にて報告している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一応六ヶ月の期間とし、変化の有る方は三ヶ月、また入居者の状況に応じて話し合いその都度介護計画を変えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の計画はあるが決めつける事をせず、常に新鮮な目線で入居者に関わり、気づきに積極的に取り組んでいる。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設理念に有るように、家庭的という事で入居者の居心地の良い空間を24時間提供できるように心掛けている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内民生委員には推進会議に参加してもらい、又町内との連携の為、夏祭りに参加を求めたりボランティアの申し入れを行っている。	○	婦人部他からのボランティアの申し込みも考え、もっと地域との交流を増やしていく予定。
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前にケアマネ等と話し合い、家族から施設の雰囲気馴染めるようにD/S、S/Sをすすめ対応してる。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	社協権利擁護は使用してる。	○	4月に地域包括支援センターが開始。現在話し合いをする予定にしている。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の入居者が医療機関を確保されており何時でも相談指示を受けることができるようになっている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	数名の入居者に精神科担当Dr. がついている。又問題があった場合には全入居者が相談を受けることができる。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設にも正看護師勤務、又週二回訪看にてのバイタルチェックにて健康管理を行っている。又相談も気軽に出来る(24時間対応可能)。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は担当Drとの密な連絡、又家族への状況報告にて早期退院に向けた対応に努めている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況に応じて特養等の入居申し込みの助言、入居者の体調に応じた医療機関の確保で対応。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	全職員で話し合い、見極め、個々の入居者に会った施設等への変更、又入居者の安楽の為の介護用品での対応に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居時に家族、ケアマネと話し合い施設自室内は以前自宅で使用した物、馴染みの品物をなるべく置けるようにして精神的安定に努めている。</p>		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声掛け時は本人の状況に応じた音質、目の高さでの声掛けに努めている。記録等は職員保管で対応している。</p>		
<p>48</p> <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者のタイムテーブルは在るが、その時々ペースに合わせ、意思を尊重した働きかけに努めている。</p>		
<p>49</p> <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎日個々の入居者の気分、体調に配慮し、ゆっくりした時間を過ごせるようにしている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人希望時は店へ行き買い物で本人の気に入った物を購入、又家族へTELして昔着ていた衣類を持参、二ヶ月に一度美容師来園で散髪、又本人希望で行き着けの店での散髪も行っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日に三度の食事準備、後片づけは常に入居者と一緒に行っている、又、自ら率先して行う入居者もあり生き生きとしている。		
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康を妨げない程度に本人の望むことは自由に生活の中に取り入れている。タバコやお酒は介護員が保管で対応している。		
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、トイレ誘導等での対応。入居者に応じてPトイレ使用等、個々の入居者に対応できるようにしている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週二回の入浴は決まっているが、いつでも自由に入浴できるようにしている。温泉に出かけ職員と一緒に入浴することもある。(家族風呂使用時もある)		
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況に応じてDr、家族との相談で眠剤、会話等での精神的安定、安眠に努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花札、ゲーム、ドライブ、散歩、畑作業、漬物を漬けるなどで生活の慣れからの気晴らしの支援に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	状態に応じて多額の金銭は事務所で保管。何人かは社協権利擁護使用、外出時は職員と共に買い物に出掛け支援している。		
58	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	買い物の同行、又天気をみながらのドライブ、散歩など戸外への支援に努めている。		
59	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	訪れてみたい場所を会話の中より見つけ出し、墓参り、友人の自宅、施設への見舞いに出かけたりしている。		
60	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	電話、手紙の代筆等で自由にいつでも行えるようにしている。		
61	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	誰が来ても迎え入れ入居者と訪問者との大切な時間をゆっくり過ごせるように配慮している。居室内に椅子を用意し、お茶やお菓子の差し入れ等で招いている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
62	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	全職員身体拘束等の危険性を話し合いやむをえずに行う際には家族に連絡、理解を得、同意してもらう場合には署名、捺印を頂いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はせず自由に入出入り出来るようにしている。帰宅願望、又徘徊時は、職員同伴で歩いたり、自宅へ一緒に車で出掛けたりしている。家族へ電話し本人と会話を持ち、落ち着く場面もある。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は定時の見廻り、玄関はセンサー使用、徘徊多い方はマンツーマン又、所在確認チェック表での対応。夜間は2時間おきの見廻りで対応。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物等は介護員室で保管(夜間帯)又危険物を保管しているところは施錠で対応している。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に事故防止の対応方法の研修又、介護員室内にマニュアル等を掲示している。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ほぼ全職員初級救急講習を受けている。又、介護員室には事故発生時の連絡網を掲示している。		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練の実施(夜間、日中想定)、地域の方へも散歩時の会話で協力を働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の入居者の状況に合わせ家族と話し合い、説明して行っている。又、変化ある場合には再度話し合い対応している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック受診時のDr. からの対応方法、週二回の看護師による体調変化の確認、変化時はDr. へ報告、受診での対応に努めている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の内服の説明書を保管し全職員が目を通し理解、内服変更時も同様に確認に努めている。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃の食事での対応、又、軽運動10：00体操、15：30レク体操にて対応、又便秘時はDr. と相談にて内服する。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の入居者に合わせ対応、出来ない方へは介助・支援、夜間帯はポリデントに入れ清潔保持に努めている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作りは本を見たり、又老人に合ったもので対応。摂取量を把握、低下時等はDr. 栄養士等と相談、他食物での対応(エンシュアリキッド、パン粥等)。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアル作成にて対応。インフルエンザ等の流行時Dr.と相談、受診を控えたりマスク等の利用で対応。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の賞味期限の確認(冷蔵庫に期限間近の食材を記入)食材の週二回の買い物、毎日まな板等をハイター消毒で対応している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は誰でも入りやすいように花等を飾り、施設脇には畑を作り近所の方もよく出入りしている。夜間以外は施錠していない。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内にオルゴール曲を日中流し、ゆったり優しい雰囲気になっている。四季に合わせた花等を飾り季節の変化を味わってもらっている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いたり、玄関に長いすを置いて、いつでも入居者・職員と一緒に寄り添い会話出来る場所を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた椅子、TV等使い慣れた物 を持ち入れ、住み慣れた生活が出来るよう配慮して いる。(遺影、位牌も持参してくる方もいる)		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	加湿器・エアコン・換気扇の活用。天気の良い 時、窓の開閉で対応をしている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	個々の入居者の機能に合わせて対応。必要な場合に は手すり等の補助機器対応している。(車椅子、 夜間のみPトイレ等)		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室やトイレはわかり易いプレートで表示してい る。時々自分の居場所がわからなくなる場合は、 職員がそっと寄り添い、安心できるよう心掛けて いる。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	ホールでのレクリエーションや台所での料理など 入居者と共に作業できるよう余裕のあるスペース を設けている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

コンセプトの「心地よい家・笑顔がある」とのことから、明るく元気な施設のため、家族、入居者、職員共に共生できるようにしていきたい。  
また、入居者の重度化に対する対応、残存機能の保持を目指していきたい。